

令和元年度 第1回 清瀬市史編さん委員会
議 事 要 旨

日 時： 令和元年7月4日（木）

午前10時～11時

場 所： 第2委員会室（市役所本庁舎4階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、黒川徳男、齊藤靖夫、
岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（10名）

欠席委員： 高村聰史、齊藤隆雄、坂間和英（3名）

事 務 局： 企画部長、市史編さん室長、市史係2名（4名）

《次 第》

1. 開 会
2. 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』の印刷製本事業者について
3. 専門部会活動状況について
4. 市制施行50周年記念誌について
5. その他
6. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和元年度 第1回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』の印刷製本事業者について【資料Ⅰ】
3. 清瀬市市制施行50周年記念誌 構成案【資料Ⅱ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 ただ今より、令和元年度第1回清瀬市史編さん委員会を開催します。
 議事に入る前に、事務局より配布資料についてご説明いただきます。

事 務 局 (配布資料について説明)

2. 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』の印刷製本事業者について

委員長 では、議事に移ります。

いよいよ今年度の終りには新たな『清瀬市史』の最初の 1 冊として古代・中世の資料編が出ることになりました。部会長の浅倉先生はじめ古代・中世部会の先生方が精力的にやってくださっていますが、その印刷製本事業者につきまして、事務局からお願いします。

事務局 『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』の印刷製本事業者は、入札の結果、ぎょうせいデジタル株式会社に決まりましたので、ご報告します。

株式会社ぎょうせいから、編集・校正などの製作部門などが事業分割した会社で、株式会社ぎょうせいの実績として『東京百年史』や『青森県史』、『千葉県史』、『東村山市史』など、また、ぎょうせいデジタル株式会社として『立川市史』、『羽村市史』等の実績があります。

ちなみに、これまでの『市史研究 きよせ』も、各号入札により、ぎょうせいデジタル株式会社が印刷製本を請け負っています。

今後、『清瀬市史 3 資料編 古代・中世』について、ぎょうせいデジタル株式会社と調整をしながら、作業を進めていくことになります。以上です。

委員長 今、ぎょうせいデジタル株式会社が印刷製本した自治体史を回覧していますが、様々なところで実績があり、ノウハウを持っている会社です。私もいくつかの自治体史で経験があります。

何かご質問はございますか。印刷製本事業者については、よろしいでしょうか。

委員 了承

3. 専門部会活動状況について

委員長 専門部会の活動状況について、今回、資料はありませんが、進捗状況を、それぞれの部会から簡単にご報告ください。

まず、考古部会からお願いします。

考古部会長 考古部会は、年 4 回の部会日程を決めておりまして、部会を開き進捗状況を確認しながら進めていく予定です。部会の陣容として、執筆専門員に、環境史を担当する学習院女子大学の工藤雄一郎先生に加わっていただきました。これで、資料編各章の執筆者が決まったということにな

ります。

現在は、それぞれの章の担当者を中心に、時代別に資料編に掲載する具体的な考古資料の選定と、それらを図版に組んでいく作業を順次進めております。今のところ、考古資料の実測図だけで 200 頁強になっています。これにさらに写真や本文を加えて構成していくこととなります。

それから、市役所新庁舎の建設工事が始まっていますが、地下部分を掘削するタイミングで、地質・地形担当の久保純子先生においでいただいて、地層断面の観察と調査をしていただく予定です。

また、昨年度まで進めてきました縄文土器の植物種子圧痕調査については、資料が抽出されておまして、今年度には専門的な種子の種類の同定分析を委託する予定です。

加えて、野塩地区の表採資料、清瀬中学校の旧蔵資料、長らく行方不明になってようやく所在がつかめた強清水遺跡の旧石器時代を中心とする考古資料について、整理を進めてきましたので、その成果を報告書にまとめるべく作業をしています。

委員 長

ありがとうございます。続いて、古代・中世部会お願いします。

古代・中世部会長

いよいよ資料編の古代・中世を今年度刊行ということになります。4 年間にわたり調査をしてきましたので、材料は揃っております。刊行に向けて、鋭意、部会の皆さんに個々の古文書に解説を加えていく作業をしていただいて、最終的な調整をしているところです。

1 点 1 点解説を加えていきますと、いろいろな古文書の繋がりが見えてきます。それをふまえて、新たに必要となった文書写真の補充や、原稿の調整など、入稿に向けて、急ピッチで作業をしている状況です。

委員 長

ありがとうございました。

／近世部会長

次は近世部会について、私からご報告します。

近世は、来年度、資料編刊行となります。今年度から、これまで 6 名だった専門調査員を 8 名に増員し、急ピッチで作業を続けております。前々から少しずつ、古文書の活字化もしており、活字化した史料が 11 万字ほどになっています。ただ、11 万字ほどといっても、ページ数にすると 180 頁くらいですので、その 3 倍から 4 倍ほどの資料を、今年度中に打ち込みながら、資料編を作っていくこととなります。もちろん、まだ、古文書を活字化しただけですので、解説や註をつける作業もしていくこととなります。

近世の資料編の編集について話し合いもしながら、急ピッチで原稿を作っています。ただ、まだ、全部の資料を調査できておらず、市外にある資料が未調査という問題があるので、その調査も今年度中に行いなが

現代部会長

ら、資料編の作成にあたっていきます。

続いて、近代・現代をまとめて現代部会長お願いします。

近代部会長が欠席のため、近代・現代部会をまとめて私からご報告します。

まず、近代部会ですが、学生 3 名の調査員によって、新聞の調査を進めています。

また、国会図書館にある GHQ 関係の資料や、また、プランゲ文庫に GHQ が検閲のために収集し、その後日本からアメリカに持ち帰った雑誌や機関誌などの図書資料がありますが、そこに清瀬の病院関係の団体、革新系団体についての資料があるので、近代部会長の方で調査しています。

現代部会では、執筆専門員 3 名が調査を始めています。神奈川県立歴史博物館の丹治雄一さんには、石造物についての分析を、横浜開港資料館の吉田律人さんは、衛生関連を担当していただくつもりです。吉田さんは早速、清瀬の銭湯の調査をしています。銭湯は都市化の指標になるという点で注目しています。また、清瀬はなんといっても病院の街ということで、中澤恵子さんは元々病院の研究をしていたので、病院関係を担当していただくことになります。

また、更に増員を図ります。清瀬には文学者や思想家が入院していたり住んでいたということがありますので、田端文士村記念館の種井丈さんという文学に強い方に参加していただく体制になります。

私の方では、清瀬村会の議案目録をもとに、村会の会議録を見ており、資料編に使えるものを抽出しています。議事録をずっと見ていくと、興味深いことが結構出てきます。例えば、昭和 20 年代に清瀬を 2 つの村に分けて、1 つを芝山村にしようという決議がなされていたりします。それから、陸軍の照空隊が清瀬にあり、以前に聞き取りをして実際にあった現場にご案内いただいたりしたのですけれども、その照空隊の名前が判明しました。「歩兵第 1 旅団第 119 連隊松井中隊清瀬分隊」というのがあったということが、だんだんわかってきました。

行政文書中心になりがちなのが、現代の資料編の悩みですが、清瀬市役所の歴史ではなく清瀬市民の歴史にしたいと考えています。そのためには市民生活に近い資料が必要なのですが、残念なことに、昭和の高度経済成長より前の資料は市民の方の家から出てくるのがあっても、それ以降の資料は歴史資料と認識されず、ただの古い紙と思われがちです。特に平成の資料というのはなかなか出てこないということがあります。なんとかして、できるだけ資料を集め、市民生活寄りの現代史にしたい

と考えています。

委員長 ありがとうございます。いろいろ問題点も出てきたかと思えますけれども、進捗状況につきまして、何かご意見ご質問いかがでしょうか。

委員 古代・中世の資料編の発刊はいつ頃になるのでしょうか。

事務局 令和元年度の3月中旬を見込んでおります。

委員 他の部会の刊行予定も、凡そが分かれば教えていただけるとありがたいです。

委員長 すでに刊行予定は決まっているので、それを目標にしています。

委員 わかりました。

委員長 考古部会で報告書が出されるというお話がありましたが、他の部会はいかがでしょうか。例えば現代部会で村会の議事目録を公開するといったことも今後あり得るでしょうか。

現代部会長 そうした目録があればとても便利だと思いますが、ただ、閲覧体制が整っていない状態で目録を刊行するのは難しいのではないかと思います。新聞目録を刊行するというのはよくあります。

委員長 今回の例に限らず、資料編を作る過程で知り得たより広い情報を公開していくということについて、他の自治体でも資料編だけでなく報告書を作成しています。今回の考古部会の報告書をはじめとして、全部会を通して連番のシリーズとして市史編さんの成果を公開していくことも、この後検討課題かと思えます。

古代・中世部会 古代・中世部会は最初に資料編を刊行しますが、調査先の都合などにより資料編刊行までには調査が間に合わなかったけれども、先方の状況が整えば調査させていただける、というところが何箇所かあります。通史編まで事業が継続している間に、そういったところと引き続きこまめに連絡を取って新たに調査できたものを報告書の形で補遺として加えることができれば、市史編さん事業として調査したものがきちんと形に残せますし、追加価値を加えられます。資料編の補遺のようなものを後から出す自治体史もありますので、『市史研究 きよせ』とは別に、ご検討いただきたいと思えます。刊行のトップバッターとしてはそんな提案もさせていただきたいところです。

近世部会長 近世でも、渋谷家の資料が膨大にあって、未整理の状態が続いています。それを整理して目録を出せば、今後、活用や保存にも役に立つのではないかなという気もしております。こうしたものも一連の報告書のなかに位置づけられるとよいかと思えます。

委員長 少し部会長会で検討させていただいて、その結果をこの先の編さん委員会で報告して、議論していくという形でもよろしいでしょうか。

委員 同様に報告書として公開すべき資料というのは、他の部会でも出てくるということでしょうか。

委員長 有り得ると思います。

現代部会長 特に近現代の場合ですが、資料編には載せきれない長すぎる資料と、刊行の後から出てくる資料というのが結構あります。あまりにも長くて数頁にもわたってしまうような資料ですと、資料編には載せないか、部分的に載せるかという選択に、どうしてもなってしまう。そうなる、とてもいい資料なのに、涙を飲んで載せなかったとか、そういうのは結構いろんな自治体であります。それから、特に現代については、刊行された資料編を市民の方がご覧になって、「なんだ、こんな資料でいいんだったらうちにあるよ」ということで刊行後に出てくる資料が、結構あります。ですので、そういう後から出てきた資料を載せられる受け皿があれば、とてもありがたいです。

古代・中世部会長 言葉が足りなかったと思うので、補足いたします。清瀬市史の編さん事業の中でいろいろ情報が集まったものは、活字にしないと後世に残りません。なので、市史の事業の最後の最後まで、成果を文字にし、本としてずっと残すという姿勢を維持することが大切です。今はインターネットの時代ですが、やはり活字で残すことの重要性を、編さん委員会は市民の方に訴えて理解していただくことが重要かと思います。そういうことも併せて、必要に応じて報告書を刊行するというのを念頭に、検討していただくと非常によろしいかと思います。

委員 分かりました。

委員 現代部会長が、先ほど市民の歴史とおっしゃいましたが、それはどの分野においても、という理解でよろしいですか。

現代部会長 そうですね。「市民生活の歴史」という意味と、「市民目線の歴史」というのがあると思います。例えば、鉄道ができることを、鉄道建設の視点で描くのか、それとも、清瀬市民にとって通勤圏が広がったとかといった目線で描くのか。そういう資料が 2 つ、行政的な資料と市民的な資料が両方出てきた。本当は両方載せたいが、どちらかしか載せるスペースがない。ではどちらを選ぶかという時に、市民目線の資料を選ぶ方が、おそらく市民の方が読んでいても面白いのかなと。

委員 ピンとくる部分というのがありますね、その方が。

現代部会長 そうですね。特に現代編は、資料を見ながら、この時はこうだったなと思いついていただいたりするのがいいのかなと思います。

委員 清瀬の全般でいえば、自然を抜きには考えられない。今、これだけ自然を残せたのは、市民の活動があったからと考えています。そういう意

味で、自然、環境保全の歴史を、わずかでも結構ですから取り扱っていただければと思います。

現代部会長 重要なテーマだと思います。是非、自然とか自然保護とかそういったものも取り入れたいと思います。

委員長 成果をどうやって市民の方に還元するかは、資料編や通史編だけではなく、大きい問題ですので、議論できてよかったです。

委員 現代の資料に、平成のものも含まれるというのは驚きました。今まで、市報などで資料提供を文字で呼びかけていますが、市報の記事は、スペースの制約があったからだと思いますが文字だけで少し分かりにくかったと思います。何か写真を載せるなどしたチラシがあるといいと思います。

現代部会長 そういうものを作りましょう。昭和の終わりとか平成の初めくらいの資料も歴史資料とわかるように。例えば、学校で配られる PTA の会報とか。もう平成元年は 30 年前ですからね。皆さん、どこにでもあるものだと思って、なかなかとっておかない。でも、みんなが捨ててしまうからこそ、今はもう残っていないというものがあります。そういったものを集めたいので、そういうことがわかるような呼びかけチラシの作成はとてもいいアイデアだと思います。市民の歴史にするためにもそうした資料をぜひ集めたいです。

委員 チラシがあれば、私たちもいつも鞆に入れて持ち運んで、ご興味ある方にそれをお渡しできると思います。40 代、50 代が協力できることもあるとわかると嬉しいです。

委員長 では、現代部会長と事務局で協力しながら、資料提供の呼びかけについて、写真や具体例も入れた、わかりやすいチラシを考えていただけたらと思います。

呼びかけについては、委員のみなさんにぜひご協力いただきたいと思っています。

他にはよろしいでしょうか。

委員 了承

4. 市制施行 50 周年記念誌について

委員長 市制施行 50 周年記念誌について、事務局からご報告願います。

事務局 市史編さん事業の一環として、市制施行 50 周年記念誌を刊行することになっております。フルカラーの本文 64 頁、3000 部を刊行し、販売す

る予定になっております。

刊行までのスケジュールとしましては、今年度の秋ごろに事業者と契約し、来年の10月1日が市制施行の記念日となりますので、その前段階、9月の中旬くらいまでに、納品されるような形をとっていきたいと思っております。

構成案につきまして、【資料Ⅱ】をご覧ください。前回お示ししました構成案から、順番など若干の変更があります。併せまして、市勢要覧的な内容として簡単な統計を、50年前と現在の清瀬を比較する形で付け加えました。また、市史刊行のPRについても巻末に盛り込みたいと考えております。

先般5月27日に写真選定会を開催いたしました。その節はご協力いただきありがとうございます。いただいたご意見をふまえ、1章の「清瀬の歴史を写真で振り返る」の部分について、事務局で原稿を調整しているところです。

なお、3章の「清瀬の歴史を図版で振り返る」の章につきましては、考古部会、古代・中世部会、近世部会の先生方に執筆をお願いすることになっております。詳細につきまして追ってご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今後、進捗状況につきまして、委員会で随時ご報告いたします。

委員長
委員
事務局

ありがとうございます。何かご意見やご質問はございますか。

レイアウトは、もう済んでいるのでしょうか。

レイアウトや編集の方法については、今後、事業者を交えまして、ご提案をいただきながら進めたいと思っております。

委員

写真を見比べながら、写真の大小などの意見もあるかと思うので、変更の余地のある段階で見せていただけるとありがたいです。

委員長

なるべく多くの方たちに見ていただきながら、よりよい記念誌になっていくと良いと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員
事務局

章ごとのタイトルはもう確定ですか？

まだ仮の段階ですので、今後皆さんに見ていただきながら、タイトルなども検討していきたいと思っております。

委員長
委員

記念誌自体のタイトルも考えていかななくてはなりませんね。

1章のテーマ配列の順序も、もう少し検討してよいと思います。

委員長

そうですね。どういう意図でこの配列にしているのか、という説明は必要になると思います。テーマごとのタイトルにも検討の余地がありそうです。

事務局

そういったところも含めまして、今後皆さんからご意見をいただきな

がら、まとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員長 構成案について、意図としてはこういうことだということで、タイトルやテーマの並び順はまだ課題であるということによろしいでしょうか。

事務局 はい。事業者との契約を秋口に予定しております。契約後に編集等を進めていく段階で、委員会を開催できればそこでお話をさせていただこうと思っております。

委員長 できれば、編さん委員には順次お知らせいただいて、いろいろ意見を集約できるような機会があるとよいかと思えます。事務局でご検討ください。

そのようなことによろしいでしょうか。

委員 了承

5. その他

委員長 事務局から、その他についてご説明をお願いします。

事務局 まず、『市史研究 きよせ』についてです。今年度、第 5 号を刊行いたします。第 5 号につきまして、調査報告の掲載を各部会で検討していただきたいと思えます。現在、現代部会よりご希望いただいております。

現代部会長 終戦後の行政について、基礎的な研究を掲載したいと思えます。

委員長 他については、従来と同じような形でしょうか。

事務局 基本構成は第 4 号と同様に考えています。編さん委員に執筆をお願いしています「石碑・石仏探訪」につきましても、次の号で書いていただける方がいらっしゃいましたら、お声がけください。

次に、市史編さん草子「市史で候」についてです。前回の委員会のようすを「五十七の巻」でご紹介しましたので、ご報告に代えましてプリントアウト版をお手元にお配りしております。「市史で候」は、これまで更新を続け、多くの方にお読みいただいております。「五十八の巻」では、今までの「市史で候」の目次をまとめてご紹介しました。併せてご覧ください。

委員長 他に何か、ご意見やご質問ございますか。

委員 今回の市史に、清瀬の大正・昭和の様子を残したいと思えます。大正時代と昭和の前半は、おそらくそうは変わらないと思えますが、大正の時代の農家、その生活、各村のありようなどを記録として残していただきたい。どこにもそういうことは残っていませんから。

志木街道にいわゆる三清戸、上清戸・中清戸・下清戸がありますね。その北側に下宿、中里、野塩とありますが、そちらと、三清戸の小字はまったく違う。どうしてこんなに違うのかと思います。三清戸は「～道東」とか「～道」とかそういう小字がついている。地番も、ジグザグに振られています。下宿、中里、野塩では、そこの地形などに合った小字がついています。そういう違いについても解明して残していけたらいいと思います。今すでに跡形もないところもありますが、この先はもっと変わっていってしまいます。

委員 長
委 員

ご意見を検討して反映していけたらと思います。

私の所属する清瀬郷土研究会が保存する資料の中から昭和 50 年に発行された「鷹場への道・農民の道＝清戸道を歩く」という小冊子が見つかりました。私たちの先輩が調査し実際に歩いて検証した資料です。市史編さん室にもお渡ししてありますので参考に見ていただきたいと思いません。

委員 長

ありがとうございます。

6. 閉 会

委員 長

それではこれで令和元年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

清瀬市市制施行50周年記念誌 構成案

表紙4頁、本文64頁

頁	内容	備考
表紙1	要素：タイトルなど	
表紙2		
1	大扉	
2		
3	挨拶1	市長
4	挨拶2	委員長
5	目次・凡例	
6	序文	
7	扉1 清瀬の歴史を写真で振り返る	15のテーマ
8	農業	
9	農業	
10	暮らし1	
11	暮らし1	
12	暮らし2	
13	暮らし2	
14	結核療養	
15	結核療養	
16	商店街	
17	商店街	
18	道	
19	道	
20	鉄道	
21	鉄道	
22	祭り	
23	祭り	
24	子ども	
25	子ども	
26	自然	
27	自然	
28	役所	
29	役所	
30	行事	
31	行事	
32	空中写真	
33	空中写真	
34	住まい	
35	住まい	
36	その他	
37	その他	
38	その他	
39	扉2 市制50年を振り返る	年表（写真付き）
40	市制50年を振り返る1	
41	市制50年を振り返る2	
42	市制50年を振り返る3	
43	市制50年を振り返る4	
44	市制50年を振り返る5	
45	市制50年を振り返る6	
46	市制50年を振り返る7	
47	統計	50年前との比較
48	統計	
49	統計	
50	写真（パノラマ）	市内のパノラマ写真
51	写真（パノラマ）	
52	地図	市内の地図
53	扉3 清瀬の歴史を図版で振り返る	
54	市内の遺跡	考古部会
55	市内の遺跡	
56	北条氏と清戸番所	古代・中世部会
57	北条氏と清戸番所	
58	鷹場	近世部会
59	鷹場	
60	村絵図	近世部会
61	村絵図	
62	市史のPR	刊行予定・販売のおしらせ
63	参考文献等	
64	書誌	
裏表紙		
裏表紙		